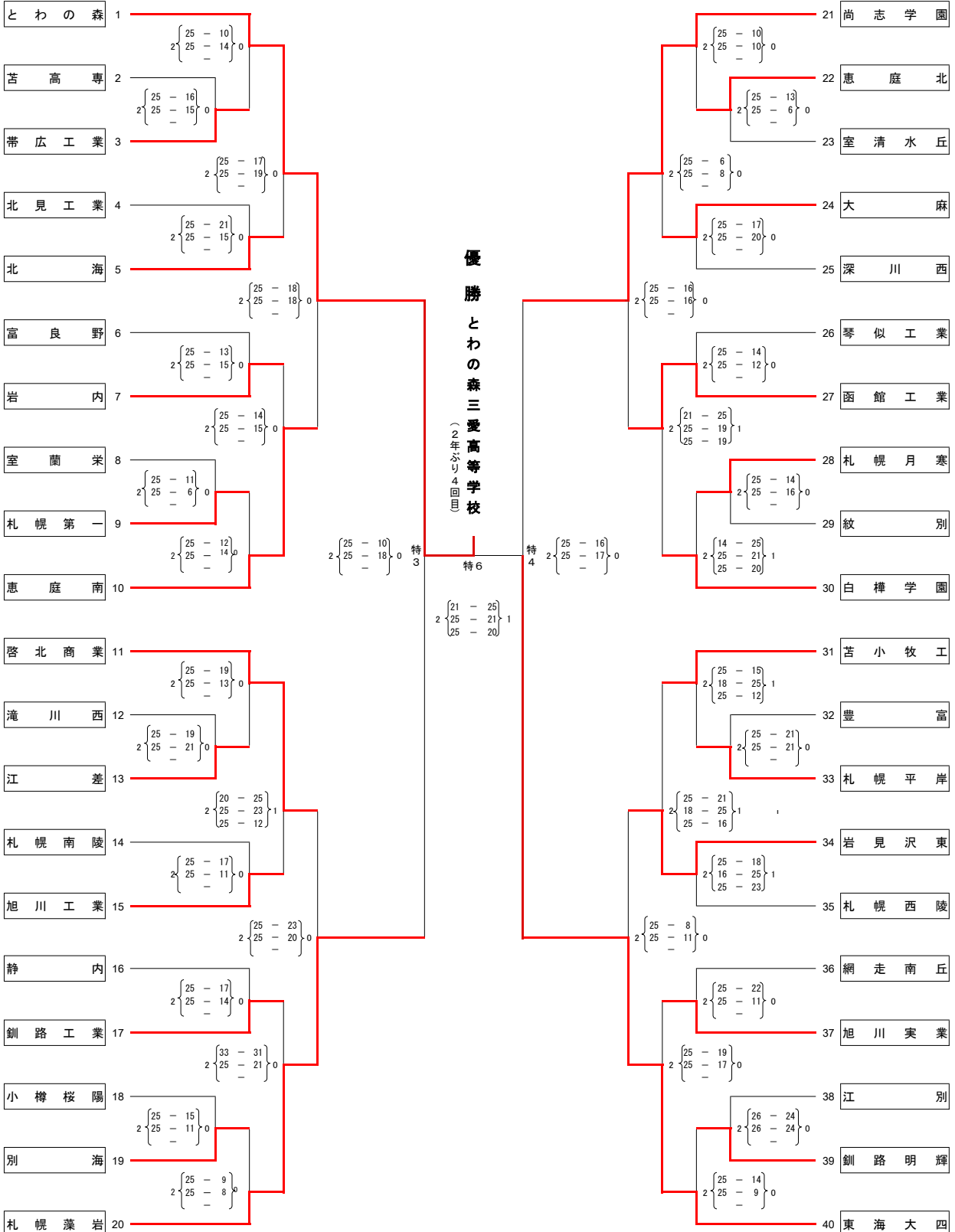


大会名 第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会 北海道代表決定戦

日時 平成24年11月13日(火)~16日(金)
会場 北海道立総合体育館センター

大会委員長 大 江 憲 一
競技委員長 大 杉 木 恵
審判委員長 浅 野 泰 弘
総務委員長 山 上 章 治

【 男子 】



【 観評 】

準決勝第1試合

インターハイでベスト8、天皇杯北海道ブロックラウンドで優勝と波に乗るとわの森三愛とインターハイ出場を逃し、雪辱に燃える札幌藻岩の対戦となった。第1セットは開始早々よとの森の巧レシーブと華麗なコンビバレーが炸裂。藻岩も15番森元、1番榎本という両エースの強打を軸に反撃を試みるが、局面を打開することはできず、そのまま25-10でとわの森が押し切った。第2セットは、ようやく藻岩のレシーブが安定しだし、スパイク決定率も上がってきた。一方とわの森にはスパイクミスが出て一進一退の展開となった。しかし、中盤頃より地方に勝るとわの森が一気に突き進み、勝負を決めた。全体的にとわの森のチーム力の完成度が際立つ試合となったが、唯一の3年生として心身両面でチームを引っ張り続けた藻岩15番森元の献身も光る試合だった。

準決勝第2試合

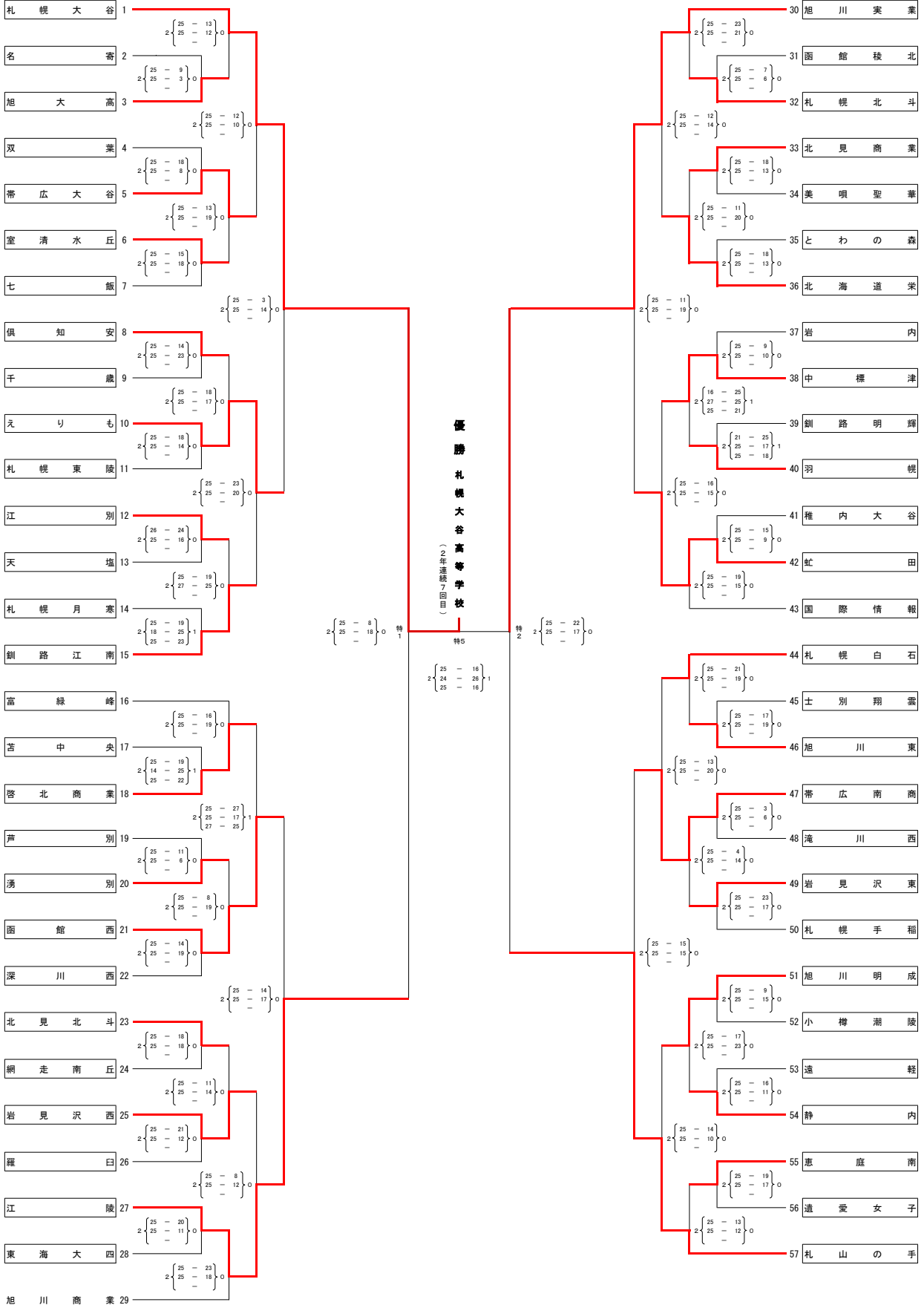
1セット目序盤は、尚志学園1番豊福のブロックで一進一退の白熱した試合展開であったが、徐々に東海大四がセンター1番森藤、4番本林を中心としたブロックが機能し、リードを広げ25-16でものにした。2セット目、序盤から東海大四がセンター陣を中心としたブロックが機能し、尚志学園攻撃陣が決まらず、東海大四は最後に10番柳町等サイド陣が決めた徐々にリードを広げ、終盤には柳町のサービスエースもあり、25-17で東海大四の決勝進出が決まる。東海大四は3年連続39回目の全国大会出場である。

決勝

1セット目、1年生主体の東海大四とバランスの取れたとわの森、東海大四の高さと技術のとわの森の対決となった。荒削りでサーブミスの多い東海大四であったが、常にリードして思いっきり良いプレーが目立った東海大四の勝利。2セット目、とわの森のセンターからの移動攻撃に若い東海大四が対応しきれず、とわの森の粘り強いレシーブと巧みな攻撃で勝利。3セット目、終始とわの森のリードで展開。1年生主体の東海大四の若さが最後に出てしまった感がある。両チーム共、この試合までセンターからの攻撃をほとんど使わずにきた。センター勝負ではとわの森が勝っていてその差が結果に出たという感じである。

日時 平成24年11月13日(火)~16日(金)
会場 北海道立総合体育館センター

【女子】



【観評】
準決勝第1試合
 1セット目序盤から大谷のエース小室のレフト、センター位置のスパイクなど決まり終始大谷のペースであった。初のベスト4で確さが目立つ江原はスパイクミスが目立つ。1セット目のセットポイントから大谷は1番小室のサービスエースを決めた。
 2セット目は江原2番石田の速攻や小室清水のレフトスパイクが決まり、序盤は5-5となり一進一退となった。しかし、大谷8番の年代のレフトスパイクや6番佐々木のライトからのスパイクが決まり徐々に大谷が江原を引き離した。
 江原は5-9でタイムアウトを取るが流れは変わらずミスも重なり7-14で2度目のタイムアウトを取る。その後も大谷は小室、加納のスパイクが決まり、最後は10番佐藤のブロックで1回目の全国出場を決めた。

準決勝第2試合
 1セット目、序盤から旭川商業が連続得点をあげ、8-3とリードをし、その後一進一退の攻防が続く。徐々に札幌山の手が長いラリーを制すなどで追いあげ終盤には2-2と同点にまで追い付くも最後は旭川商業11番奥山のスパイクが決まり、2-5-2で旭川商業が追従を許さず、1セット目をものにする。2セット目、序盤から旭川商業のペースで、連続ブロックが決まり9-3とリードする。札幌山の手も3番大谷のスパイクや、ブロックなどで応戦するも、最後まで点差を詰めることができず、2-5-1で旭川商業の決勝進出が決まる。なお、旭川商業は8年ぶり24回目の全国大会出場である。

決勝
 女子の決勝はインターハイ北海道予選を制した札幌大谷と北海道ブロックラウンドで札幌大谷を破った旭川商業との激戦りであった。両チームとも終始、巧セッター(大谷5番三浦、旭川5番河島)を中心としたスピード感溢れるコンビバレーを展開、真の北海道チャンピオンを決めるにふさわしいハイレベルの試合となった。1セット目は中盤の旭川のミスに促されて大谷が流れを押し切り、2セット目は大谷にミスが出て旭川がリード、大谷も粘りを発揮して旭川に持ち込んだが最後は旭川が振り切った。3セット目は中盤の旭川の攻撃が確固になったところを大谷がようやく押し返し徐々にリードを広げ、そのままゲームセット、2年連続7回目の優勝を果たした。